

3.実際に記事を手に入る

E-learning教材

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

2021.7 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当

最後に第3部として、雑誌記事・新聞記事を実際に入手する方法をご紹介します。

雑誌記事：資料形態のさまざま

復刻版	原本の紙面を撮影・複写などして作製した冊子。
マイクロフィルム	原本を縮小撮影したもの。専用の機械で閲覧する。
デジタル化資料	原本などをもとにデジタル化した画像。デジタルアーカイブとして無料で公開されているものや、データベースや電子ジャーナルとして販売されているものなどさまざま。
全集やアンソロジーなどへの収載	雑誌の一記事や、雑誌連載が後にこういった資料に収載されることがある。原本との異同が無いかは注意が必要であり、初出を確認して原本等にあたるほうが望ましい。

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

明治から昭和期の一般誌・大衆誌について、原本を閲覧できればそれに越したことは無いのですが、なかなか保管されていないことも多いです。原本が利用できなくても、複製して出版・提供されているものがあれば、有力な入手手段となります。紙の形態で複製出版されている「復刻版」、撮影画像を専用の機械で閲覧する「マイクロフィルム」、インターネット上で有料・無料で提供されている「デジタル化資料」など、さまざまな形態を視野にいれつつ、入手を図っていきます。

新聞記事：資料形態のさまざま

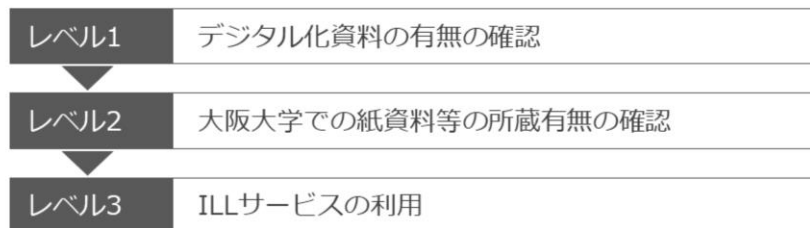
縮刷版	原紙の紙面を撮影・複写などした後、縮小印刷して作製した冊子。
マイクロフィルム	原紙を縮小撮影したもの。専用の機械で閲覧する。
デジタル化画像 (データベース)	大手紙の場合、検索ツールとしてのデータベースがそのままデジタル化画像閲覧ツールとなる。

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

新聞にも同様にさまざまな複製形態があります。
新聞の場合は、紙質や分量の理由から、原紙のままで保存されていることは稀なので、こういった複製資料にあたるしかないケースも多いです。
第2部で紹介したデータベースに加えて、「縮刷版」や「マイクロフィルム」などの複製物で利用できるものが多数あります。

本文入手に向けた流れ

以下のような優先順位で、調査を進めるのがおすすめ



明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

本文入手に向けて、こちらの3段階で調査を進めていくのがおすすめです。

- レベル1. デジタル化資料の有無の確認
- レベル2. 大阪大学での紙資料等の所蔵有無の確認
- レベル3. ILLサービスの利用

順番に紹介していきます。

レベル1：デジタル化資料の有無の確認

基本的には雑誌・新聞単位での利用可否を以下の2つで確認

- ・ 大阪大学OPAC 及び OPACに情報が反映されていない契約データベース
- ・ 国立国会図書館デジタルコレクション

※国文学研究資料館「近代書誌・近代画像データベース」にも図書を中心に雑誌・新聞も公開画像あり。 <https://base1.nijl.ac.jp/~kindai/>

※そのほか、ある機関が雑誌単位でデジタル化して公開していることもあるので、インターネット上で情報を少し調べてみるのもアリ。

例：東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ「みづゑの世界」
<http://mizue.bookarchive.jp/>

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

まず、デジタル化資料の有無の確認です。雑誌・新聞単位での利用可否確認が基本となります。

まずは、大阪大学で利用できるかどうかを確認、そして、国立国会図書館デジタルコレクションで利用できるかどうかを確認、の2つの方法で行います。

レベル1：デジタル化資料の有無の確認

阪大で利用できるデジタル化資料（＝電子ジャーナル）

基本的には、大阪大学OPACで、**雑誌・新聞名**で検索できる。

⇔ただし、以下のデータベースの中に収録のものはヒットしない。

■OPACではヒットしない雑誌などの例

JapanKnowledge Lib内のコンテンツ

- ・ 風俗画報
- ・ 太陽
- ・ 文芸倶楽部 明治篇 文芸倶楽部1
- ・ 滝田樗陰旧蔵近代作家原稿集

データベース「太宰治自筆資料集」

データベース一覧に
情報があるので、
ここもチェックする
と良いです。



明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

大阪大学OPACで雑誌名・新聞名で検索すれば、デジタル化資料の有無を確認できます。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/>

本教材で扱う一般誌や新聞だけでなく、学術雑誌についても同様です。

大阪大学で利用できるデジタル化資料は、OPACで検索できるというのが基本ですが、画面上に挙げているものは例外で、これらはOPACから検索できません。

各データベースから直接利用するしか無いので、関係しそうな方は覚えておいてください。

レベル1：デジタル化資料の有無の確認

国立国会図書館デジタルコレクション

OPACには情報が登録されていないので別途検索する必要がある

公開レベルが「インターネット公開」もしくは「図書館送信限定」であれば利用できる

収録有無の確認方法

国立国会図書館デジタルコレクションで、雑誌名で検索すると、検索結果の並びが分かりづらい。特定の雑誌の収録有無を調べる便利な方法は以下の2つ。

国立国会図書館オンライン <https://ndlonline.ndl.go.jp/>

雑誌名で検索して検索結果に  デジタル があれば、デジタルコレクションに収録がある。このアイコンから、直接デジタルコレクションに進むこともできる。

雑誌分類検索 <https://dl.ndl.go.jp/ja/serial.html>

デジタルコレクションに収録されている雑誌を、その雑誌の扱う主題から探すことのできるサイト。「この分野の雑誌が何か収録されていないかな」という探し方をしたいときに便利。

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

国立国会図書館デジタルコレクションで利用できる資料も、OPACには情報が入っていないため別途検索する必要があります。
日本の一般誌・大衆誌のデジタル化資料群としては最大のものであるので、忘れずに検索してみるようにしましょう。

ある雑誌の収録有無を検索する際には、国立国会図書館デジタルコレクションで雑誌名を直接検索するよりも、ここに記載するような方法を使うほうが分かりやすいかと思います。

国立国会図書館オンライン <https://ndlonline.ndl.go.jp/>

雑誌分類検索 <https://dl.ndl.go.jp/ja/serial.html>

レベル2：大阪大学での所蔵有無の確認

大阪大学OPACを使えば各種形態をまとめて検索可能

OPACでは必ず雑誌・新聞タイトルで検索。記事名ではヒットしないので注意！

資料形態（原本、復刻版、マイクロフィルムなど）ごとに別々にヒットする。所蔵巻号の範囲を要確認。

図書館webサイトトップ
<https://www.library.osaka-u.ac.jp/>
蔵書検索 (OPAC) から

クイックサーチ

蔵書検索 電子ジャーナル 電子ブック データベース まとめて検索

① 早稲田文学
▶ 詳細検索 (OPAC)

雑誌名・新聞名で検索

② 検索

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

大阪大学で利用できるデジタル化資料が見当たらない場合は、次の段階として、大阪大学での紙資料等の所蔵有無を確認します。
こちら、大阪大学OPACを雑誌名・新聞名で検索するという方法です。
復刻版やマイクロフィルムなど、原本以外もまとめて検索できます。

レベル2：大阪大学での所蔵有無の確認

☐ 1.

雑誌

ほととぎす

1号 ([明30.1]) - 20号 (明31.8); 2巻1号 ([明31.10]) - 5巻12号 ([明35.9])。 - 松山: ほととぎす発行所 1897-1902

雑誌ID=3001036674 NCID=AN00302947

記号場所	所蔵番号	年次	請求記号	コ
総合図	15-20;2,3(2-10),4(2-3,6-7,11-12),5	1897-1898;1898-1901		

所蔵件数: 1件

☐ 2.

雑誌

ホトトギス

6巻1号 ([明35.10])。 - 富士見町 (東京市): ほととぎす

雑誌ID=3002104723 NCID=AA11227717

記号場所	所蔵番号
総合図	7(1-9),8(7-8),9(3,7,10-11),11(1,4),19,20(1-2,5,7,9,15(2-11),26(1-9),27(3-7),28(1-8),29(3-12),30(1-9),3(2),37(1-5),38-44,46(2-3),50(3-12),51-53

☐ 3.

雑誌

ホトトギス

複製版。 - 6巻1号 ([明35.10]) - 15巻12号 (大1.9)。 - 東京: 日本近代文学館, 1972-1973

雑誌ID=3002121139 NCID=AN00391324

記号場所	所蔵番号	年次	請求記号	コメント
総合図	6-15	1902-1912		

所蔵件数: 1件

☐ 4.

雑誌

ほととぎす

複製版。 - 1号 ([明30.1]) - 20号 (明31.8); 2巻1号 ([明31.10]) - 5巻12号 ([明35.9])。 - 東京: 日本近代文学館, 1972-

雑誌ID=3002120180 NCID=AN00391313

記号場所	所蔵番号	年次	請求記号	コメント
総合図	1-20;2-5	1897-1898;1898-1902		

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

OPACの検索結果画面を確認する時の注意点です。

まず、雑誌や新聞は刊行途中で名称が変更する場合があります。

例えば、この雑誌はひらがなの「ほととぎす」からカタカナの「ホトトギス」へ名称が変更しています。このような場合、OPAC上は別の資料としてヒットしてきます。

また、原本のほかに復刻版がある場合も、このように別の資料としてヒットします。

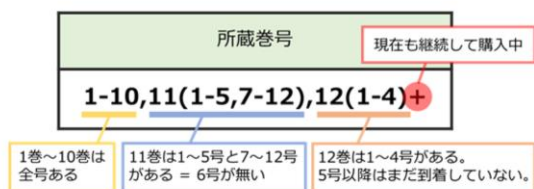
それぞれ見逃しの無いようにしましょう。

レベル2：大阪大学での所蔵有無の確認

OPACなどでの所蔵巻号の読み取り方

多くの雑誌は、「巻」「号」の2階層だが、1階層のみの番号をとる雑誌もある。

数字	雑誌の「巻」を表します。
カッコ内の数字	雑誌の「号」を表します。
- (ハイフン)	前後の数字の間の巻もしくは号が全て所蔵されていることを表します。
+	現在も継続して購入中であることを表します。



明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

OPACの所蔵巻号の読み取り方法に慣れていない方は、こちらの画面上の解説を参考にしてください。

レベル3：ILLサービスの利用

Inter Library Loanの略称

図書館同士のネットワークで他の図書館の資料を利用するしくみ
阪大他キャンパスの図書館、他大学図書館、国立国会図書館など
公共図書館についてはお近くの公共図書館でお申込ください

申込は各図書館カウンターで

- ・申込受付と受取は平日9時～17時
※総合図書館：取り寄せは相互利用カウンタ、訪問利用は参考調査カウンタへ。
- ・オンラインで申込もできる

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

大阪大学に紙資料などの所蔵も無い場合は、最後の手段としてILLサービスがあります。

ILLサービスとは、図書館同士のネットワークを利用する方法です。
阪大の他キャンパスの図書館はもとより、他の大学の図書館や国立国会図書館などもこのネットワークに入っています。
ILLサービスについては、図書館の窓口で申し込みできるほか、附属図書館Webサイトからオンラインで申込もできます。

レベル3：ILLサービスの利用

1. 複写取り寄せ

コピーの取り寄せ（雑誌記事、図書の一部・・・）

有料（複写料と送料）※学内からの取り寄せなら複写料のみ

2. 図書取り寄せ

図書自体を取り寄せて借りる（雑誌は×）

有料（往復送料）※学内から取り寄せなら無料。



Webサービスの
「文献複写・現物貸借申込み」
から申し込めます。

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

ILLサービスでできることとして、まずこの2つがあります。

1つ目は複写の取り寄せです。雑誌記事であれば、この方法を使うことになります。

他の大学からの取り寄せの場合、取り寄せ先の大学によって料金が異なりますが、見開き1枚あたりのコピーがおおよそ40～50円程度、それに加えて送料がかかります。ですので、ページ数にもよりますが、1記事は数百円で入手可能なことが多いです。おおよそ3日から1週間程度で到着します。

大阪大学内の他のキャンパスの図書館からの取り寄せもできます。こちらは送料はかかりませんし、複写料金も見開き1枚で25円と、よりお安く手に入ります。

2つ目は図書の取り寄せです。

これは、他の大学から図書そのものを取り寄せるサービスです。往復の送料として1200～1500円程度を支払ってもらう形になります。雑誌は借りることができないので、最初に説明した複写の方法のみ利用可能です。

どちらも、附属図書館Webサイト右上のWebサービス、文献複写・現物貸借申込み、のところからオンラインでも申込可能です。

レベル3：ILLサービスの利用

3. 訪問利用

直接、所蔵している図書館・研究機関に行く

阪大図書館が先方との間の仲介を行う

Web申込x、3日前までに各図書館カウンターへ

※貴重資料の場合はもっと早めに（2週間前までを目途に）

関西大学との相互利用協定

関西大学（ミューズ大学図書館を除く）は予約なく、学生は学生証 / 教職員は教職員証または大阪大学附属図書館利用者票の提示だけで利用できる

常勤教職員、大学院生、学部学生 が対象

→非常勤の先生、研究生などの方は通常の訪問利用の手続きが必要です

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

ILLサービスとしてもう1つできることに訪問利用があります。
所蔵している大学や研究機関の図書館へ、皆さんが直接行くという形です。

例えば、ある雑誌のバックナンバーをまとめて閲覧したい、というような場合に、有効な手段かなと思います。

阪大図書館が、行先の図書館との仲介をします。

とくに公立・私立大学の図書館ですと、直接行くだけでは入館できません。
阪大図書館を通じた事前申し込みの必要なところがほとんどです。

訪問利用は、Webでの申し込みを受け付けていませんので、行きたい日の3日前までに図書館のカウンターへお越しください。

手続きをいたします。

利用希望資料が貴重資料ですと、手続きにさらに時間がかかることが多いです。お早めにご相談ください。

もう1つお伝えしておく、関西大学の図書館とは協定を結んでいるため、事前連絡無しで直接訪問すれば利用できます。

ただし、対象は常勤教職員、大学院生、学部学生に限定されています。非常勤の先生や研究生・聴講生の方などは、他の大学と同じように訪問利用の事

前手続きが必要ですのでご注意ください。
近くにある大きな大学の図書館ですので、使っていただくと便利だと思います。

(参考) 所蔵機関を探せるツール

CiNii Books <https://ci.nii.ac.jp/books/>

国内大学・研究機関の所蔵資料の検索に。

国立国会図書館オンライン <https://ndlonline.ndl.go.jp/>

国立国会図書館の所蔵資料の検索に。

国立国会図書館サーチ <https://iss.ndl.go.jp/>

国立国会図書館・都道府県立・政令指定都市の図書館所蔵資料の検索に。

カーリル ローカル <https://calil.jp/local/>

都道府県ごとの図書館等の所蔵資料の横断検索に。

旧・全国新聞目録のデータ

https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-700037.php#3

全国の図書館のマイクロフィルム、複製版等の新聞所蔵リスト。(2021年3月31日で更新停止)

国立国会図書館リサーチナビ 戦前期雑誌の所蔵機関

https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-737.php

上述のツールで検索が困難な戦前期雑誌のおもな所蔵機関の個別検索に。

文学館研究会 文学館一覧 <https://hiroyukiokano.wixsite.com/literarymuseum/blank-51>

全国の文学館のリストとして。(ただし、更新は既に停止している)

これらが基本的なツールではありますが、明治～昭和期の一般誌・大衆誌・新聞の所蔵機関は難航する場合があります。

図書館職員がお手伝いしますので、お気軽にご相談ください。

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

訪問利用の行先を検討する際に、所蔵機関を探せるツールとして、このようなものがあります。

CiNii Books <https://ci.nii.ac.jp/books/>

国立国会図書館オンライン <https://ndlonline.ndl.go.jp/>

国立国会図書館サーチ <https://iss.ndl.go.jp/>

カーリル ローカル <https://calil.jp/local/>

旧・全国新聞目録のデータ

https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-700037.php#3

国立国会図書館リサーチナビ 戦前期雑誌の所蔵機関

https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-737.php

文学館研究会 文学館一覧

<https://hiroyukiokano.wixsite.com/literarymuseum/blank-51>

これらが基本的なツールではありますが、明治～昭和期の一般誌・大衆誌・新聞の所蔵機関調査は難航する場合があります。
所蔵機関がよくわからないときは、お近くの図書館までお気軽にご相談ください。

本教材のまとめ

最後に、本教材のまとめです。

まとめ：記事情報の探索

雑誌記事情報

複数のデータベースを併用する（それぞれにしか収録の無いものがある）
必要に応じて、紙の書誌索引・参考図書も併用する

新聞記事情報

基本的な探索方法は、新聞ごとのデータベースの活用
キーワード検索が有効で無い部分については、紙面画像を目視確認するしかない
特定の記事を搜索して見つからない場合、各本社版や地域面の存在を意識する

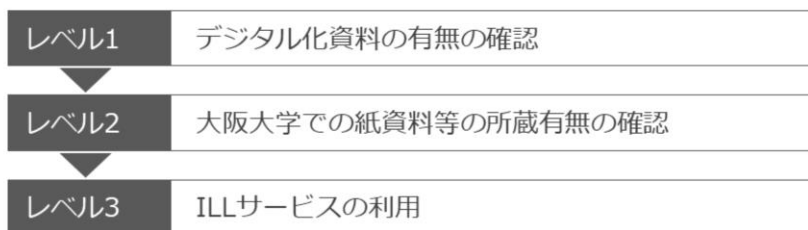
明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

雑誌記事情報の探し方について、第1部で紹介しました。
それぞれのデータベースにしか収録の無い情報があるので、複数のデータベースを併用することが大切です。
また、必要に応じて、書誌索引や参考図書といった紙の資料も活用して行きましょう。

新聞記事情報の探し方について、第2部で紹介しました。
大手全国紙については、新聞ごとのデータベースを活用することが、基本的な探索方法です。
これらのデータベースは、キーワード検索が有効な部分をよく理解した上で活用するようにしましょう。
特定の記事を搜索しても見つからない場合は、東京本社版以外の各本社版や地域面の掲載記事である可能性もあります。

まとめ：記事本文の入手

以下のような優先順位で、調査を進めるのがおすすめ



明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

第3部では、記事本文の入手方法について紹介しました。
デジタル化資料を確認し、次に大阪大学での紙資料などの所蔵有無を確認します。
それでも見つからなければ、ILLサービスの利用も視野に入れます。

大学図書館の所蔵資料は、その性格上どうしても、学術書や学術雑誌が中心です。
そのため、明治～昭和期の日本の一般誌・大衆誌・新聞となると、ILLサービスの利用を視野に入れるしか無いケースも出てきます。
必要に応じてご活用ください。

(参考) 国立国会図書館リサーチ・ナビ

国立国会図書館が作成している、テーマ・資料別等の調べ方ガイド。各項目について、調査に有用な資料・Webサイトを多数紹介している。

<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

本講習会の内容作成にあたって、リサーチ・ナビの以下の項目を参照しました。

雑誌の総目次を探す / 雑誌記事索引 / 文学作品の初出を調べる / 戦前期雑誌の所蔵機関
書評を探す / 人物文献（伝記など）を探す / 国立国会図書館所蔵の内務省交付本
ブランゲ文庫の検索 / Gordon W. Prange Collection
主題書誌（関連文献リスト）を探すには / ジャーナリズム・出版に関する文献を探すには（主題書誌）
音楽に関する文献を探すには（主題書誌）
美術・建築に関する文献を探すには（主題書誌）
演劇・映画に関する文献を探すには（主題書誌）
日本文学に関する文献を探すには（主題書誌）

明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

最後に、参考情報として、「国立国会図書館リサーチ・ナビ」というサイトを紹介します。

国立国会図書館が作成している、テーマ・資料別の調べ方ガイドです。

<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

本教材で扱ったような、情報の探索・入手が難しい情報について、とくに内容が充実しています。

分野名などのキーワードで項目を探ることができるので、研究に参考になる項目が無いか、ぜひご確認ください。

ご相談ください

総合図書館参考調査カウンター [平日9:00～17:00]

sogo-ref@library.osaka-u.ac.jp

雑誌記事・新聞記事の書誌情報調査

雑誌・新聞の所蔵調査

ある調査事項についての文献調査 etc.

対面・メールでのご相談の他、オンライン相談も受付中です。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/gakunai/sougou/reference/>



明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

本教材でご案内してきた明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事については、情報が集約されておらず、いろいろな手段を使って検索するしかないというのが現状です。

本教材の内容を活用しても、やはり情報が見つからないというケースもあるかと思います。

そういったときは、図書館職員までお気軽にご相談ください。

総合図書館では参考調査カウンタで調査相談をお受けしています。対面・メールのほか、Zoomを活用したオンライン相談も受付中です。

生命科学図書館・理工学図書館・外国学図書館の各図書館のカウンタでも相談をお受けしていますので、お困りの際はまずはお近くの図書館にご相談ください。

この教材はこれで終了です。

受講してくださりありがとうございました。

参考文献など

阿部幸江 (2018)「国立国会図書館オンラインの目次データを使用した資料の検索方法」『参考書誌研究』79, pp.15-59.

長澤雅男, 石黒祐子 (2016)『レファレンスブックス：選びかた・使いかた』三訂版, 日本図書館協会.

日本出版学会関西支部編 (2019)『出版史研究へのアプローチ：雑誌・書物・新聞をめぐる5章』出版メディアパル.

藤巻修一 (2013)「『雑誌記事索引集成データベース』の誕生と機能：明治初期からの雑誌記事検索を可能にした『ざっさくプラス』」『みんなの図書館』435, pp.10-18.

毛利和弘 (2019)『文献調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本』第8版, 日本図書館協会.

本教材で使用了国立国会図書館デジタルコレクションの画像や操作画面については、国立国会図書館へ事前に転載許諾を取っていることを申し添えます。

また、国立国会図書館デジタルコレクション以外のデータベース操作画面の画像につきましては、事前に提供元へ使用条件を確認のうえ、その許可範囲内で使用しております。国立国会図書館デジタルコレクションも含めて、データベースの操作画面の画像について、本資料からの二次的な転載はご遠慮ください。